

令和5年度 第3回 知立市環境審議会 議事概要

- 1 日時 令和5年10月23日（月）午前10時から午前11時15分
- 2 場所 知立市役所 第1会議室
- 3 出席者及び欠席者
 - (1)出席者 大里健二 会長、上野裕則 委員、日比野佐知子 委員、野畑悦雄 委員、永田久枝 委員、棚橋勝樹 委員
 - (2)欠席者 山本裕嗣 副会長、小川雄一 委員、甲斐春美 委員、足立達信 委員
 - (3)事務局 小栗朋広 市民部長、奥村康明 環境課長
宮本恵美 環境課長補佐兼ゼロカーボン推進係長
水谷亮介 環境課主査
森田紘圭・近藤美沙希（共に大日本ダイヤコンサルタント）

4 議事

(1) 協議事項

第2次知立市環境基本計画中間見直しについて
～改定案に対する審議～

【協議事項に関する主な意見・質疑応答】

- 委員 成果指標 一人当たりの家庭ごみ排出量の「家庭ごみ」は、粗大ごみや資源ごみなど全部含めた値か。また、ごみの分類ごとに目標を細かく設定した方が、達成具合が分かり、対策する側も意欲が湧くと思う。
- 事務局 家庭ごみというのは全般的な表現で、燃えるごみ、資源ごみ、粗大ごみ、家庭から出るごみを、すべてまとめたごみの量を人口で割ったものと考えていただきたい。
- ごみの分類ごとに目標を設定することについては、目標は具体的な計画である一般廃棄物処理基本計画を引用した形式をとっている。このため、上位計画である環境基本計画では細分化を行うというのは困難と考えている。細分化をした方が、何をすべきか分かる、意欲が湧くというのは、その通りだと思う。
- 委員 成果指標 一人当たりの家庭ごみ排出量の目標値を 595 g/人・日以下とした計算過程において、現況値の△2.5%減としたためと説明があったが、2.5%という数字に根拠はあるのか。
- 事務局 2.5%については、一般廃棄物処理基本計画の目標設定の当初の設定の仕方が基準年比△2.5%減となっていたため、これに倣った形となる。
- 委員 成果指標 一人当たりの家庭ごみ排出量の 2030 年の目標値が、2026 年を計画終了年次とする一般廃棄物処理基本計画の目標値を下回っているが、一般廃棄物処理基本計画の目標値は改定しなくてよいのか。
- 事務局 一般廃棄物処理基本計画の目標値の設定の仕方を参考に、2030 年の環境基本計画の目標値を設定したという意味であり、一般廃棄物処理基本計画の目標値の改定は考えていない。ただし、2026 年の一般廃棄物処理基本計画の計画

期間終了に伴う、次期計画策定の際には、環境基本計画で立てた 595 g/人・日以下という目標を参考にする必要があると考えている。

委員 43 ページに学校給食の地産地消に関するコラムがあるが、地産地消に有機栽培の野菜を使うということも施策に追加してはどうか、

事務局 担当部署に意見を伝えさせていただく。これまでも営農者の方に、有機栽培について提案したことがあるが、機械の問題、他の耕作地からの農薬の飛散が防止できるかという技術的な問題、また経済的な問題もあるため、難しいという話を聞いたことがある。

委員 目標の達成状況について「一人あたり家庭ごみ排出量」は達成できていて、「リサイクル率」は達成できていない。人的資源に限りがある中で、達成できていない部分に重点的に取り組むなど、取り組みの力配分には配慮したほうがいいのではないか。

事務局 「一人あたり家庭ごみ排出量」、「リサイクル率」に対する取り組みは連動している部分がある。燃えるごみの中には古紙古布など、リサイクル可能なものがある。資源として循環させることができれば、ごみも減る、リサイクル率も上がるという仕組みになるため、こうした取り組みに力を入れていきたい。

委員 ごみ袋の導入に関して、地域では、カラスによるごみの被害が出ている。バイオマスプラスチック含有した可燃ごみ袋に関して、黄色のカラス除けネットのように黄色に変えることで、カラス除け対策にならないか。

事務局 黄色はカラスにとって見えにくい色であるが、カラスは臭いでも寄ってくるため、正しくカラス除けネットを使用することが大切だと考えている。ごみ袋の色に関しては、他の地域で効果があると報告されれば検討していきたい。

委員 知立市はゼロカーボンシティを表明しており、ラウンドアバウトのような目立つ取り組みをしてはどうかと思う。信号のない交差点であるため、災害時にも役立ち、脱炭素にも貢献できる取り組みだと思う。

委員 成果指標のリサイクル率の目標値に関する認識について聞きたい。

事務局 民間企業での回収により、市民の皆さんはリサイクルに出しても、市側の統計には入ってこない状況がある。また刈谷知立環境組合クリーンセンターでの焼却灰の再利用の中止もリサイクル率の低迷の要因になっている。

目標設定にあたっては、一步一步段階を踏んでいこうという思いから、当初の目標値より下げている。なお、データを入手できた民間企業のリサイクル量も計算に含めれば、実績は 16.3%（2022 年度）と悪化している事実はない。

委員 古布の回収について、発展途上国に輸出されていると聞くが、アフリカでは必要以上の古布が輸入され、実際は焼却しているなど、問題が起きていると聞くがどうか。

事務局 市で回収した古布の売却先の事業者では、そのようなことはないと思う。中にはリサイクルを名目にして集め、本当は処分を目的に輸出をしている事業者も存在する可能性は否定できないため、注意したい。

委員 計画書が厚く、読むのが大変。同じ表現も多いが、もう少し何とかならないか。

事務局

中間見直しということで、過去の実績、検証、これからの方向性という大きな流れを描いているため文字数は多くなってしまふ。計画のアウトラインを記載した概要版を作成する予定で、大まかに知りたい場合は概要版、詳しく知りたい場合は計画冊子の本編を見ていただくことを想定している。

委員

29 ページの市内の小中学校での環境学習一覧が載っている。新聞で SDG s についてアイデアを出す学習を小学校 4 年生がしているとあった。子どものアイデアは大人とは違うアイデアを持っているため、子どもの意見を引き出すような機会があるとよいと思う。

(午前 11 時 15 分終了)